



鈴鹿の風

2014.1

第20号

ごあいさつ「鈴鹿病院創立70周年」

院長 小長谷 正明

創立70周年記念市民講演会のご案内

国立病院総合医学会でポスター賞を受賞しました

看護課だより

三重県スモン研修会が開かれました

禁煙外来を始めました

平成オタクコラム プロ野球編

院内成人式を開催しました

地域医療連携室だより

トピックス

Information

職員の輪

70th



昭和40年代当時の鈴鹿病院

現在の鈴鹿病院

病院理念

- 私たちは、国民に奉仕する立場から、政策医療である筋ジストロフィー・重症心身障害・神経難病の分野において、患者様本位で質の高い専門医療を提供します。
- 私たちは、充実した医療と健全な経営を心掛け、常に意識改革を怠りません。

ごあいさつ「鈴鹿病院創立70周年」

独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院長 小長谷 正明



明けましてお目出度うございます。

本年は、スムーズな電子カルテの導入をやりとげ、より充実した医療を担える病院への成長を目指したいと思います。どうぞ、よろしく御願いいたします。

さて、国立病院機構鈴鹿病院は、平成25年11月に創立70周年を迎えました。昭和18年に亀山陸軍病院としてスタートし、戦後しばらくは戦傷者や結核の療養所として運営されていましたが、昭和39年には進行性筋萎縮症の医療をはじめ、筋ジストロフィーや重症心身障害児、神経難病と医療を必要とする障害者の治療・療養の場となり、それぞれの時代が必要とする医療を担ってきました。そして、それに携わった先人たちの奮闘の結果として、平成22年の中央病棟と同24年の外来診療棟の完成で、21世紀の医療の場にふさわしい病院に全面的に装いを新たにしました。これからも社会のセーフティネットとしての役割を果たしていくとともに、地域に開かれた病院を目指していきます。

ここ至るまでは決して生やさしいものではなく、平成2年に私が内科医長として、当時の国立療養所鈴鹿病院の医療に責任を持ち始めたとき、病院の沈滞ムードに愕然としたものです。経営状況も悪く、全国のワーストグループに属する病院で、当時の飯田光男病院長が、このままでは病院は消滅してしまうと、文字通り孤軍奮闘されていました。その一環が、結核病床を整理しユニット化の先魁を行い、空いた部分で神経難病患者の入院診療を行いはじめました。

飯田院長に触発されてか、『病院は医者次第』と、何人かの医師がきちんと診療して病棟運営をするようになってから経営も改善し、先生退官の翌々年には、国立療養所としてはトップ・グループで早期に黒字化しました。

その結果、国立医療機関の統廃合の波に飲み込まれずにすみしました。しかし、平成14年に病院長として私が引き継いだものは、まともな医療機器もない、古色蒼然のままの病院でした。現代の日本とは思えないような、シュワイツァー博士のランバネエのような病棟群に、貧乏くじを引いたと思いがしながらも、病院長として最初の管理診療会議で、『いつか、この病院を小さくてもきらりと光るものしたい』と述べたことを覚えています。

当時は若く、新米の病院長が超えなければならない問題は山積みで、結核病床の一般病床化、医師・看護師の不足問題、急激に増加する人工呼吸器装着患者と医療安全、それに病院のシステムの近代化とガバナンスの確立と、気が休む暇もありませんでした。大きな転機は、平成16年4月の独立行政法人国立病院機構の誕生で、経理や管理運営面が大きく変化しました。独立採算制に近い資金運用が可能になり、全職員の努力の結果として、借入金なしで施設整備や医療機器の更新・充実を続々と達成できたのは望外の喜びでした。士気の向上に繋がったのは言うまでもありません。

平成25年度における、鈴鹿病院の定床は、療養介護（筋ジストロフィー）2個病棟120床、重症心身障害児（者）2個病棟120床、神経難病を主とする一般病床一個病棟36床の計276床で、ここ数年は95%以上の病床利用率です。さらに、入院患者の約4割が人工呼吸器を装着しており、長年の障害者医療での経験の蓄積に基づいて、超重症の方々に安全で安心な現代的医療を提供しています。これを支えているのは、常勤非常勤合わせて24名の医師、173名の看護師、そのほか104名の301人の職員です。

30年後の創立100周年の時は、鈴鹿病院はどうなっているのでしょうか？今後見込まれる遺伝子治療などの先端医療にも対応できる病院になっているのでしょうか？現在は新装なったばかりの病院施設も古色を帯び始めているかもしれません。が、いつの時代においても、社会の要請に答えている病院であり続けて欲しいと、未来の病院長はじめ各職員に御願いしたく思います。



独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院

創立70周年記念市民講演会

国立病院機構鈴鹿病院は昭和18年に創立されてから70年が経ち、これを記念し、明日へのチャレンジを目指して、スポーツおよび医学のトピックで、二宮清純氏、岡田洋平氏をお招きし、市民講演会を催すことにいたしました。

鈴鹿病院は神経難病や筋ジストロフィー、重症心身障害児(者)などの、医療を必要とする障害者の診療にあたり、社会のセーフティネットとしての役割を果たしています。これを機会に、当院についてご理解を深めていただけると幸いです。

日時 平成26年2月15日(土) 13:30~15:50

場所 confetto suzuka heiankaku (鈴鹿平安閣) 3Fサフィール
〒513-0806 三重県鈴鹿市算所1233-1 TEL059-378-4122

入場無料

独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院
創立70周年記念市民講演会

PROGRAM

開演 13:30~15:00

「勝者の思考法」
二宮 清純氏

開演 15:10~15:50

「iPS細胞を用いた神経疾患研究」
岡田 洋平氏

入場無料

日時 平成26年 2.15 13:30~15:50

場所 confetto suzuka heiankaku 3Fサフィール
〒513-0806 三重県鈴鹿市算所1233-1 TEL059-378-4122

主催 独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院
問い合わせ先 〒513-8501 三重県津市南町3丁目2番1号
TEL059-378-1321(代表)

国立病院総合医学会で ポスター賞を受賞しました

11月8日・9日に石川県立音楽堂・ホテル日航金沢・ホテル金沢・金沢市アートホール(石川県)にて第67回国立病院総合医学会が開催されました。今年は『Vita Nuova! 国立医療～新たなる船出に向けて～』をテーマと研究成果の発表を行いました。

優秀な研究発表に与えられる「ベストポスター賞」を、東2階病棟：黒田純香 看護師、リハビリテーション科：佐藤伸 言語聴覚士がそれぞれ受賞しました。



東2階病棟

看護師 黒田 純香

今回、「摂食機能が未発達な重症心身障害児に対する摂食機能向上の取り組み事例」について発表させていただきました。

当日は色々な質問や意見を頂き、他の方々にも関心を持っていただけ良かったと思います。

また、今回の研究に対して、座長より賞賛のお言葉を頂きました。入院時、乳首哺乳瓶での摂食しかできなかった患児が、摂食機能訓練を病棟全体で取り組み、現在は、夕食時のみではありますが、離乳食を摂取しています。

今後も患児に合わせた看護を継続し、また、他の患者様にも個別性を生かした看護を行うことで、看護の充実・質の向上に繋げて行きたいと思っています。

最後に、今回の研究をまとめるに当たり、ご協力頂きました全ての方々に深く感謝いたします。



発表を行う黒田純香 看護師



リハビリテーション科

言語聴覚士 佐藤 伸

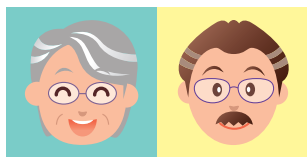
今回の開催地は金沢ということで、11月の北陸は寒いのかなと想像していましたが、当日は特に寒いという事はありませんでした。

今回のテーマは「経管栄養から嚥下評価、訓練を実施して経口摂取が可能になった筋強直性ジストロフィーの1例」で発表しました。題名の通り絶食状態だった患者様が訓練、評価を継続することにより、3食を口から食べる事が可能になったという経験をまとめました。

発表時は会場から多くの質問や意見を頂きました。今回の経験を糧にして、更に患者様はじめ、鈴鹿病院に貢献できる言語聴覚士として成長してゆきたいです。

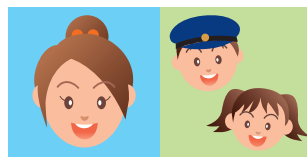
次回、第68回の学会開催地は横浜です。次回もよい発表ができるよう日々の臨床を充実させたいです。

最後に抄録にまとめることを許可して頂いた患者様、ご指導頂いた先生方に深く感謝致します。



看護課だより

教育担当看護師長 林 みどり



新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。
当院は、平成22年度から教育担当看護師長が配置されました。そして、新人看護職員研修の充実や当院の専門性が学べるように院内看護教育プログラムの再構築がされました。

特に、平成23年度からは、東海北陸地区看護部長協議会で検討された「重症心身障がい児（者）看護」の現任教員の質の統一と向上を目指して指導案作成が始まりました。さらに「筋ジストロフィー看護」も指導案作成に取り組むようになりました。

そして、今年度も検討された指導案を基に、副看護師長や中堅看護師が指導案を作成し経年別に講義を行いました。指導案を作成することで伝えたいことを明確にすることができ、教えることの重要性を学びました。また、聴講生からは、「分かりやすかった」「今後の看護に活かせる」等の評価をもらい「生きた講義」になったことから、モチベーションを高めることにもつながりました。

このように、先輩から後輩へ引き継がれて行くことによって、共に看護をする仲間として信頼し合い、看護の実践の場で活かすことができるのではないかと思います。

また、実習指導者のメンバーも基礎看護技術として「観察」や「コミュニケーション」等を臨地で学びに来られる学生に対し、自主的に指導案を作成したりテーマカンファレンスにも指導案が必要と考え取り組む姿勢も見られています。

これからもエネルギッシュなスタッフとともに看護を深めて行きたいと思っています。



◆新人看護職員研修会



◆プリセプター研修会



三重県スモン研修会が開かれました



11月16日（土）にスモン患者とかかわりのある人や今後かわるかもしれない方、難病や薬害、制度について学びたい方々を対象に三重県においてスモン患者の理解を深め、よりよいネットワークの構築を目的とした三重県スモン研修会（主催：厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「スモンに関する調査研究班」）を当院で開催しました。

当日は、医療・介護関係者や行政機関職員、学生など約40名の参加者があり活発な質疑応答および意見交換が行われました。

禁煙外来を始めました

月曜日・水曜日の
午前で実施中です

「分かっちゃいるけど、止められない！」は、半世紀以上昔の1961年、クレイジー・キャッツのギタリストでコメディアン、植木等さん(1927-2007)が唄って爆発的にヒットした「スーダラ節」の一節です。「ある行為が、自分自身のからだや心、そして長期的には人生に悪影響を及ぼしかねないことだと理性では分かっているけれど、意志が弱くて止められない。つい習慣で、その行為をくり返してしまう」という、とても人間的な悩みかと思います。これはおよそ「---依存症」とよばれるものの正体で、アルコール、ギャンブル、インターネットなどなど、身に覚えのある人は多いのかも知れません。今回のテーマはタバコ(ニコチン)依存症です。

最近の健康志向のご時世、喫煙者の肩身は狭くなりつつあります。タバコは値上がりし、外箱には「健康のため吸い過ぎには注意しましょう」と記載されています。分煙は進み、タバコを吸える場所は限られてきています。当鈴鹿病院をはじめ医療施設、公共施設、交通機関内は今やほとんどが禁煙で、時と場所によっては喫煙に罰則が課せられます。

多くの喫煙者は「タバコを断ち切る自信がある」と自分の意志の強さを信じて、一度は禁煙を試みながらも、挫折した経験があるのではないかと思います。しかし、元来人間は弱いものです。自力禁煙は難しいものですから、自己嫌悪に陥ることはありません。



禁煙外来スタッフ

禁煙に必要なものは3つです。まず、禁煙の決意。次に、それを支援する医師や医療スタッフ。最後に、禁煙当初のつらい時期をのりきるための薬剤です。禁煙治療の概略を説明します。その治療は通常3か月で1クール、当鈴鹿病院では、タバコ内の依存症をひき起こすニコチン成分がパッチ薬(貼付剤)として処方されます。初日、禁煙を希望される方には、アンケートに答えて頂き、医療スタッフの前で「禁煙宣誓書」にサインをして頂きます。家族や職場の方にその決意を公表すれば、なお良いでしょう。初日、2週後、1月後、2月後、3月後の合計5回の通院が必要です。禁煙は、その動機は何であれ、喫煙者の健康を害しかねない多くの病気(癌、慢性閉塞性肺疾患・肺気腫、脳卒中、心筋梗塞、狭心症など)の発生率を低下させます。またタバコの煙は、喫煙者周囲の人の健康にも害を及ぼすことが証明されていて「受動喫煙」とよべれます。ですから、タバコを止めることは、長い目でみればあなたのみならず、あなたを取り巻く人たちの健康にもプラスに働くことでしょう。鈴鹿病院の内科医師と医療スタッフは、禁煙すると決心した方、再挑戦しようとする方のお役に立ちたいと思います。

内科・循環器科、副院長 安間 文彦

私たちと一緒に
頑張りましょう!!



基本的にはアンチジャイアンツであるが、敵の中にも気になる選手がいる。桑田真澄もその一人である。巨人入団時には平然と清原を裏切り、借金問題や登板日漏洩疑惑で週刊誌を賑わしたり、常にダーティなイメージがつきまとったが、プロ野球選手としては誰しもが認める一流プレーヤーであった。ピッチングだけでなく、フィールディングやバッティングを含めすべて完璧にこなす万能型の選手である。

90年代の桑田、楨原、斎藤雅樹が揃っていた巨人先発陣は他球団の羨む豪華ラインナップであった。ドラゴンズファンにとっては決して忘れることのできない94年の10・8決戦では7回からの3インニングを抑えて胸上げ投手となっている。通算成績は173勝141敗14セーブ、個人タイトルは最優秀防御率2回、最多奪三振、沢村賞を獲得している。

95年の怪我(ピッチャーフライを獲ろうとして靱帯を損傷)さえなければ200勝に届いていたかも知れない。怪我から復帰後は、さすがに往年のキレは失っていた。

2002年4月19日の阪神戦に先発した桑田は、当時全盛期であった阪神の先発井川に触発されたのか息詰まる投手戦を演じた。その姿には、ブラウン管を通して鬼気迫るものを感じられた。大リーグに行く前の岩隈とダルビッシュの投げ合いがそうであったように、真の一流同士の対決は勝敗をこえて感動をもたらすものである。常に冷静でニヒルな笑いを浮かべている印象が強い桑田であるが、彼の勝負師としての熱い一面を垣間みることができた貴重な試合として記憶に残っている。

最後は海を渡り大リーグに挑戦するが、年齢のこともあり活躍できずに引退した。現在解説者として活躍しているが、常にプロとして高いレベルを要求する厳しい解説を聴くことができて楽しい。

臨床研究部長 久留 聡

平成オタクコラレ
プロ野球編12



平成25年度

院内成人式が開催されました

1月22日(水)に平成25年度院内成人式が開催されました。今年度は6名の患者さんが新成人となり、ご家族とともに式に臨みました。

院長をはじめとする病院幹部職員、鈴鹿市文化振興部の方々や新成人の出身校である特別支援学校の先生等を来賓として招き、お祝いの挨拶とともに激励の言葉をいただきました。

厳かな雰囲気が会場を包むなか、新成人となった患者さんから今までの思い出やご両親・ご家族に感謝する内容の「新成人誓いの言葉」が発表され、成人となる患者さんのご家族からの言葉もいただきました。



新成人誓いの言葉を発表



記念品・花束贈呈



厳かな雰囲気が会場を包みます



地域医療連携室だより



当院は患者さま相談窓口を設置しております

当院では、患者様に対する支援の充実を図るよう努めております。そこで、患者様の様々な疑問、苦情等(安全、人権、権利、利益を擁護すること)をお申し出いただけるように、患者様相談窓口を設置しております。個々のケースに合わせて状況判断しながら適切に対応し、患者様が納得できる医療を提供していきたいと考えております。

概要は下記のとおりとなっております。

■相談内容

診療・治療に関する心配事、医療安全、介護保険、在宅医療や入院・転院、治療費のお支払い等についてのご相談を承ります。

■相談方法

来室、電話、郵送、FAX等でも結構です。

■受付窓口

鈴鹿病院 外来診療棟1階 医事係 又は 医療福祉相談室

■受付時間 平日 8:30~17:15

なお、受付担当者が他の患者様のご相談で、席を外している場合もございます。その場合は、お待ちいただくか、次回相談予約をおとりいたしますのでよろしくお願いいたします。

- 安全面等の相談につきましては医療安全の担当者が対応します。
- 相談内容については秘密を厳守します。
- 相談されたことにより、不利益を受けることはありません。
- 受診時、入院中に各部署へのご意見・苦情等ございましたら窓口担当者がお話を伺います。窓口対応の後、各部署に連絡し対応させていただきます。

どうぞお気軽に
ご相談ください



トピックス



生き生き健康講座を開催しました

10月23日（水）に中央病棟3階プレイルームにて「第10回生き生き健康講座」を開講しました。

第一部では、小長谷正明病院長より「惚けない、転ばない、元気な高齢者」と題して認知症についての知識を深めるとともに、認知症の予防などについての講演を行いました。

第二部では、古川十二条（ふるかわきつと）作業療法士より「バランス改善で転倒予防」をテーマとして「明日からではなく今日」できる運動の実技を行いました。

50センチ四方の升目を進みながら、リズムに合わせてステップを踏む「ふまねっ」と運動では「次はどっちの足だっけ？」と四苦八苦される参加者も多く、会場は楽しく盛り上がりしました。

院内感染対策研修会で知識を深める

1月8日（水）に職員の医療知識を深めることを目的として、全職員を対象に院内感染対策研修会を行いました。今回は三重中央医療センター感染対策診療部長 井端 英憲 医師を講師として招き「院内感染対策～最近の話題～」をテーマに講義を行い知識を深めました。

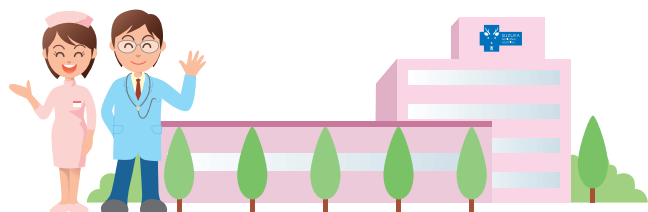


電子カルテ運用開始

当院は電子カルテシステムに移行します。

電子カルテシステムの導入により、患者様の診療情報を共有化することで、医療従事者は患者様の状態の把握が、迅速かつ的確にできるようになります。

当院では、更に医療の質や安全性の向上を図り、今後も安心安全な医療の提供に努めてまいります。



職員の輪 (職員紹介)



東2階病棟 看護師 塚田 沙也 さん

看護師になって4年目です。私が所属している重症心身障がい児（者）病棟の患者さんは疾患上、訴えや意思表示が困難なため様々な場面で難しいと感じることが多くあります。

しかし、とても魅力を感じることも多くあり日々患者さんに癒されている自分も居ます。

私も患者さんに笑顔を与えられるような関わりや看護を心がけ、さらに知識や経験を重ねていきたいと思っています。

◆ 外来診察担当表 (2014年1月1日現在)

	月	火	水	木	金
神 経 内 科	小 長 谷	酒 井	久 留 前 嶋	小 長 谷	久 留
内 (循 環 器 科)	野 口	木 村	安 間 (循 環 器)	安 間 (循 環 器)	棚 橋 (循 環 器)
小 児 科		予 約			予 約
整 形 外 科		田 中 午後 (装具)			田 中
リハビリテーション科		田 中			田 中
歯 科	若 林	永 田	松 村		
皮 膚 科	予 約	予 約	予 約		予 約
禁 煙 外 来	野 口		安 間		

- 外来受付は8:30~11:00、診療開始は9:00~です。
- 歯科は身体障害者の方に限ります。
- 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします(あらかじめ電話予約のうえお越し下さい)。
- 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約下さい。
- 土曜日、日曜日、祝祭日は休診です。

◆ 交通案内

- JR「加佐登」駅より徒歩8分
- 東名阪「鈴鹿」I.C.より車8分
- 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- 三交バス(荒神山口行き/椿大神社行き)
「加佐登神社前」下車すぐ
- 鈴鹿市西部地域コミュニティバス
椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ



◆ 編集後記

表紙に飾りましたように、創立70周年を迎えることができ、「鈴鹿の風」も2007年10月の創刊以来7年目を迎えることとなります。

本年も鈴鹿病院の情報発信として、患者さんや家族の皆さんにご愛読いただけるよう心掛けていきたいと思ひます。

企画班長 佐合 弘至

独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院

〒513-8501 三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号 Tel. 059-378-1321代 Fax. 059-378-7083 <http://www.hosp.go.jp/~suzukaww/>

平成26年1月発行